

## 令和3年1月7日～11日大雪に係る交通対策の検証会議（第2回）議事要旨

1 日時 令和3年2月8日（月）15:30～17:00

2 場所 富山県民会館 8階バンケットホール

### 3 出席者

(有識者) 中川 大 富山大学副学長、都市デザイン学部 教授  
上石 勲 国立研究開発法人防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター長  
手計 太一 富山県立大学工学部 准教授  
(気象) 常盤 実 富山地方気象台長  
(関係者) 上坂 敏美 西日本旅客鉄道(株)金沢支社 安全推進室長  
高野 修 あいの風とやま鉄道(株)運輸部長  
新庄 一洋 富山地方鉄道(株)自動車部長  
村井 義治 富山地方鉄道(株)鉄軌道部長  
岡田 尚久 万葉線(株)運輸部長  
(富山県) 新田知事  
蔵堀政策監、砂原危機管理監、中谷観光・交通振興局長、竹野生活環境文化部長、  
江幡土木部長、前田県警察本部警備部長  
田中観光・交通振興局次長・総合交通政策室長、武隈生活環境文化部次長  
式庄防災・危機管理課長、奥田防災・危機管理課長、牧山広報課長、  
村岡県民生活課長、金谷道路課長、井上県警察本部交通規制課長

### 4 挨拶（新田知事）

- ・ この度の記録的な大雪により、県内に甚大な被害が及び、公共交通にも大きく障害が生じた。その中で交通事業者の皆様には除雪作業など早期復旧に向け、懸命にご尽力いただき、改めてお礼申し上げます。
- ・ 本会議では、特に交通対策に焦点を当てた検証を行い、今後の対策の充実・強化につなげていきたい。
- ・ 第1回会議（1/21）では、大雪により県内で何が起こっていたのかを時系列で把握したうえで、検証のポイントを整理し、県庁内で共有した。
- ・ 本日は、今般の大雪に係る交通対策の課題と対応について、有識者の皆様より専門的な見地から忌憚のないご意見をいただきたい。ご意見を踏まえ、2月中を目途に検証の取りまとめを行いたい。

### 5 議事概要

#### 令和3年1月7日～11日大雪に係る交通対策の課題と対応について

#### (1) 説明

- ①常盤富山地方気象台長 資料1 1月7日から11日にかけての大雪について
- ②上石雪氷防災研究センター長 資料2 最近の大雪災害と雪氷災害予測研究
- ③道路課、総合交通政策室、 資料3 令和3年1月7日～11日大雪に係る交通対策の課題と対応(案)  
防災・危機管理課

#### (2) 関係者からの補足説明等

- 今回、快速タイプの列車運行を初めて高山線で行った。間引き運転、主要線路を固定した運行なども行った。
- 3日間運休してしまい、非常に大きな責任を感じている。ラッセル車が止まり始め、救援のためモーターカーロータリーによる除雪を始めたが、時速約2キロ、除雪した後から雪が降り積もり間に合わなかった。公共交通としてなるべく列車を動かそうと無理をして結局動かせず、お客様にご迷惑をかけた。除雪能力、降雪予測をしっかりと見極める、あまり無理しすぎないということをしていかないといけない。防災WEBのリンク先とするなど、お客様、プレスに早め早めに情報発信、周知していきたい。今年の3月には新しいラッセル・ロータリーが到着するので、有効に活用していきたい。
- バス運行に影響があった期間は8日～18日までの10日間。初日バスが出て行き戻って来られず。翌9日～12日はバスが道路を走れなくなり、乗合50路線中最終的に2路線のみ運行。13日～17日は改善できるものと考えている。バスは大型車両のため、一般の除雪にさらに一手間かける除雪を必要と

する。狭い道幅、交差点に残る雪などは道路除雪の延長線上にあるので、除雪いただく自治体、事業者の方にもお話しし、事前に対策するとともに、すぐに対応いただける連絡体制も構築していきたい。

- 踏切の圧雪がひどく、そちらに除雪の要員を割くことになった。今後、道路管理者と相談・調整しながら、連携して踏切除雪、融雪装置の設置について進めていきたいと思っている。
- 軌道線は道路と併用になっており、軌道線を除雪しても車が入って来られると圧雪が発生し、脱線等が発生する。

### (3) 意見交換

- 災害時には渋滞が必ず発生する。これまで、「災害時に渋滞する」と発信してきたつもりだが、今回の状況から富山県民には伝わっていなかったように感じる。
- 災害時には渋滞が発生するものとして、何ができるかを考える必要がある。渋滞にはボトルネック渋滞とグリッドロック渋滞があり、今回の大渋滞は東西南北に動かなくなるグリッドロック渋滞である。グリッドロック渋滞の解消は、走行している自動車交通量を減らす以外に方法はない。今後の対策としては、自動車交通を発生させないことを重点におくべきである。
- 除雪体制の強化は悪いことではない。ボトルネック渋滞の場合、その場所を警戒すればよいが、しても渋滞がなくなる訳ではない。むしろ、県がそれをすれば、渋滞がなくなるのではないかと多くの人が思ってしまう、逆に自動車が出てきてしまい、より悲惨な渋滞にもつながりかねない。
- 除雪対策をして、「次は大丈夫ですよ」と情報発信するよりも、むしろ「渋滞は必ず発生しますから外に出ないでください」と情報発信したほうがよい。発信するメッセージは、「災害時は自動車を使わないのが原則」であり、このことを多くの人に知ってもらうことが最も大事である。
- なぜ災害時に自動車を使ってはいけないか。1点目は、自らに大きなリスクが発生すること。震災や津波でも自動車を使うと逃げ遅れなど自らのリスクが発生する。2点目は、より緊急度の高い自動車の妨げになること。おそらく今回自動車を使われた方は、とても重要な要件で使われた。例えば、「仕事に行かなければならない」「食料を買いに行かなければ」など、ご本人は重要だと思って自動車を使われたと思うが、このことが救急車などより命に直結する緊急車両の妨げになっている可能性があるということを知らなければならない。
- このような状況を多くの人を知っていなければならない。富山県は、近年大きな災害も経験していないことから、そういう状況が起こるといことが県民に浸透していなかったのではないかと。今回大きな二次災害にはつながらなかったが、これを教訓として今後の災害対応をしてほしい。
- 幹線道路や交差点の優先除雪は自動車交通量の抜本的削減ができてはじめて有効になる施策なので、それだけを行おうとすると逆効果になる可能性もある。ブライスのパラドクスと言われる交通工学の理論で、一本だけスイスイ走れる道路を作ってしまうと、むしろ全体の交通所要時間が伸びてしまう可能性がある。どこかの路線を早く通すのでなく、自動車交通量を減らすことが重要である。
- 公共交通の運行維持や早期復旧は、道路渋滞緩和に効果がある。
- 鉄道事業者と行政の除雪に関する役割を事前に明確にする必要がある。例えば、踏切の除雪やプラットホームの除雪、人員の補填など。
- 情報提供は、正確な情報を収集して適切に発信することが基本。マスコミの皆さん、テレビ、ラジオ等との連携方法を確立しておくことが重要で、チームで情報発信する。
- 災害時には命に係わる行動以外は全て不要不急であるということ、個人、企業を含めて皆さんに思っていたかかないといけない。
- 「渋滞を起こさせない」ためには、外に出ないことが大事。
- 住民やドライバーへ注意喚起するには、このくらい雪が降れば、このくらいの渋滞が発生するとする経験値に基づいた整理をしておく必要がある。
- 「渋滞してしまったら」の観点では、情報の発信は渋滞解消にも必要であり、渋滞に巻き込まれた人たちの不安解消に繋がり大事。渋滞情報やWebカメラの情報は重要である。  
また、雪がどれくらい降っているか、これからどのくらい雪が降るのか、大災害になるかもしれない

とする情報を合わせて提供していくことも大事である。

- 渋滞の中に入ってしまった人や渋滞の解消に重要なことは、渋滞がどれだけ続くのか、道路上にある雪の情報や除雪車がどこを除雪しているのかなど、視覚的に分かる形で情報提供できれば、不安解消や渋滞回避の行動にも役立つ。
- 情報提供に関しては、マスコミの力が大変大きい。5年前の山梨県の大雪では、マスコミと一緒に現地を歩き、「屋根下が危ない」などと言いながら歩いたところ、テレビのテロップで「こういうことが危ない。気をつけてください」と一日中流してくれた。
- 情報を集めるというところでは雪の情報は足りない。それを見せる方法、伝える形や連携等について今後詰めていってほしい。
- 少子高齢化、気候変動の中でのインフラの整備、社会のあり方が問われている。そういう意味で、個別の対策は、本当にそんなにお金をかけていいのか検討すべきではないか。気象庁の方で、今回の雪が異常気象だったのか、それとも気候変動によるシグナルがもう出ているのか、それによって対策が全く違ってくると思うので、そういったものも踏まえて検討してほしい。
- いわゆる災害休日をもっと広めてもいいのではないか。県の提案は、起きた後の手当てだが、その前に何かもっとできたのではないか。まず、気象台の方で1月7日に全国初の顕著な大雪情報を出している。8日は金曜日であり、その日休めなかったのか。「今日はやめます」というのを公の機関でやるとよかったのではないか。事前の気象情報から降雪までのリードタイムを本当に生かしていたのか検証が必要だと思う。気象庁から有益な情報が出ているので、情報を、リードタイムを活かす政策をとってほしい。
- オペレーターの確保、除雪車の増強などは、雪が少なくなっている状況での積年の課題だと思っている。
- 情報発信について、県の防災WEBは一般の人は普段見ないだろう。ふだんから見る仕組みを考える必要がある。
- 若者をはじめ車にスコップを持っていない人が非常に多い。豪雪の県と言いながら雪慣れしていない人が多い。
- 消雪用水について、環境負荷を抑えるために交互散水、インバーター方式などを取っている。今回は、(地下水を)上げていない時に雪が降ってあまり効果を発揮していない。こういった時に危機に適応した消雪用水のようなものがあるといいと思った。